

昭 和 5 4 年 度

秋田県公害技術センター年報

第 7 号

秋田県公害技術センター



は し が き

昭和54年度は、環境の常時監視機構（テレメーターシステム）新設後7年を経過し、中央監視局の大幅な改造を行い、データ処理と解析機能などの強化が実現し、また、遅ればせながら「八郎瀉汚濁機構解明の基礎調査」に着手し、55年度において予算化され正式にスタートすることになりました。

当センターも設立以来10年の歳月を経過し、その間、環境行政における科学的基盤の担い手としての責を果たしてきましたが、この間我々自らの手で検索したデータの量は膨大なものとなり、それぞれの場において有効に活用されてまいりました。しかし、あるものは、公表されず日の目を見ないでいるものも少なくありません。これらの中でかなり有意義なデータも多いので、費やされた汗の結晶が無駄に捨て去られることのないよう、整理し取り纏める努力が必要であろうと思います。本号の報文中にもこのような考え方によって取り纏めたものも掲載してあります。

一つの転換期にさしかかったと言われる環境行政に対応するため、この10年間の積み上げを土壌として、なお一層の努力をいたす所存でございます。

ここに、年報第7号をお届けして皆様のご批判とご指導を賜われれば幸いと存じます。

昭和55年12月

秋田県公害技術センター

所長 小田野 直